

厚生省生活衛生局 殿

試験報告書

2,3,6-トリメチルフェノールの細菌を用いる復帰突然変異試験

(試験番号：7L640)

株式会社三菱化学安全科学研究所

目次

要約	7
材料および方法	8
1. 試験物質	8
2. テスト菌株	8
3. 培地	9
4. S9 mix	10
5. 試験方法	10
結果および結論	12
参考文献	13
表	14
図	17

要 約

2,3,6-トリメチルフェノールについて, *Salmonella typhimurium* TA98, TA100, TA1535, TA1537 および *Escherichia coli* WP2uvrA の 5 菌株を指標とする復帰変異試験を実施した。

予備試験を 5000, 1250, 313, 78.1, 19.5, 4.88, 1.22 $\mu\text{g}/\text{プレート}$ の 7 濃度で実施した結果, S9 mix の有無によらず, いずれの菌株においても復帰変異コロニー数の増加は認められなかった。また, S9 mix 非共存下および共存下の 1250 $\mu\text{g}/\text{プレート}$ 以上で抗菌性が認められた。この結果をもとに本試験では 1250 ~ 39.1 $\mu\text{g}/\text{プレート}$ (公比 2) の 6 濃度を設定した。

本試験 1, 2 の結果, S9 mix の有無によらず, いずれの菌株においても陰性(溶媒)対照値の 2 倍以上を示す復帰変異コロニー数の増加は認められなかった。

以上の結果から, 2,3,6-トリメチルフェノールは細菌を用いる復帰突然変異試験において変異原性を有さない(陰性)と結論した。

材料および方法

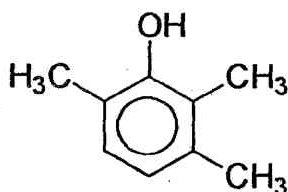
1. 試験物質

1.1 被験物質

から提供された 2,3,6-トリメチルフェノール (CAS 番号 2416-94-6, 純度 99.67%) は, 使用時まで室温, 暗所に保存した. 被験物質は下記の構造式および分子量を有する水に微溶, ジメチルスルホキシド, アセトン, アルコールに易溶の淡黄色固体である.

被験物質の安定性は, 被験物質供給者より安定性を保証する資料を入手し, 確認した.

構造式:



分子量: 136.19

不純物: 2,4,6-トリメチルフェノール 0.08 %
2,5-キシレノール 0.05 %

1.2 対照物質

陰性(溶媒)対照物質および陽性対照物質として, 以下のものを用いた.

対照物質名	略称	入手先	ロット番号	純度(%)
陰性対照 ジメチルスルホキシド	DMSO	関東化学㈱	810S1815	99.7
陽性対照 2-(2-フリル)-3-(5-ニトロ-2-フリル) アクリルアミド	AF-2	和光純薬工業㈱	PTQ1296	98.8
アジ化ナトリウム	NaN ₃	和光純薬工業㈱	KWE6685	96.5
N-エチル-N'-ニトロ-N-ニトロソクアニジン	ENNG	Sigma Chemical Company	56F-3651	99.0
9-アミノクイニシン	9-AA	Sigma Chemical Company	80F-0186	99
2-アミノアントラセン	2-AA	和光純薬工業㈱	TWH2355	98.0

2. テスト菌株^{1) 2)}

2.1 テスト菌株

カリフォルニア大学より 1983 年 5 月 27 日に入手した *Salmonella typhimurium* TA98, TA100, TA1535, TA1537 および東京大学医科学研究所より 1985 年 10 月 14 日に入手した *Escherichia coli* WP2uvrA の 5 菌株を用いた.

これら菌株の遺伝的特性は以下のとおりである。

菌 株	変異遺伝子	付帯突然変異			突然変異型
		修復	膜	R 因子	
TA98	<i>hisD</i>	<i>uvrB</i>	<i>rfa</i>	pKM101	フレームシフト
TA100	<i>hisG</i>	<i>uvrB</i>	<i>rfa</i>	pKM101	塩基対置換
TA1535	<i>hisG</i>	<i>uvrB</i>	<i>rfa</i>	—	塩基対置換
TA1537	<i>hisC</i>	<i>uvrB</i>	<i>rfa</i>	—	フレームシフト
WP2 <i>uvrA</i>	<i>trpE</i>	<i>uvrA</i>	+	—	塩基対置換

2.2 特性検査

各テスト菌株のアミノ酸要求性、紫外線感受性、膜変異、薬剤耐性などの遺伝的特徴を事前に調べ、これらの特性を備えた菌株を用いた。

2.3 保存方法

液体完全培地中に 37 °C で 8 時間振盪培養した各菌懸濁液 4 ml に対し、0.35 ml の割合で DMSO (関東化学株, ロット番号 810S1814) を加えた。これを 200 μ l ずつ小分けしてドライアイス・アセトン中で急速凍結し、超低温槽で -80 °C 以下に凍結保存したものを使用した。

2.4 菌懸濁液

凍結保存した菌懸濁液を解凍後、20 μ l を液体完全培地 10 ml に接種し、37 °C で 8 時間振盪培養した。培養終了後の菌懸濁液は、濁度計を用いて菌濃度を測定し、各菌株共に生菌数が 1×10^9 /ml 以上であることを確認した。

3. 培 地

3.1 液体完全培地

精製水 1 l に対し、ニュートリエントブロス (Oxoid Nutrient Broth No.2, Unipath 社, ロット番号 067 54134) 25 g の割合で溶解し、オートクレーブ滅菌 (121 °C, 15 分間, 以下同様) した。

3.2 最少グルコース寒天平板培地

クリメディア AM-N 培地 (オリエンタル酵母工業株, ロット番号 AN750LM) を購入し、使用した。

3.3 トップアガー

精製水 100 ml に対して、粉末寒天 (Bacto-Agar, Difco 社, ロット番号 58007AJA) 0.6 g,

塩化ナトリウム 0.5 g の割合で加え、オートクレーブ滅菌し完全に溶解した。その後、あらかじめ調製しておいた 0.5 mM D- ビオチン, L- ヒスチジン混合水溶液(サルモネラ用)または L- トリプトファン水溶液(大腸菌用)を 1/10 量添加した。使用時まで約 45 °C に保温した。

4. S9 mix

4.1 S9

フェノバルビタール(1 日目 30 mg/kg, 2 日目以降 60 mg/kg を 3 回腹腔内投与)と 5,6- ベンゾフラボン(3 日目に 80 mg/kg を 1 回腹腔内投与)で酵素誘導した SD 系雄ラット肝由来 S9(キッコーマン(株), ロット番号 RAA-374 : 1997 年 12 月 4 日製造)を購入し、使用した。使用時まで -80 °C 以下で保存した。

4.2 S9 mix

S9 mix 1 ml あたり以下の組成で調製し、使用時まで氷中に保存した。

S9	0.1 ml
塩化マグネシウム六水塩	8 μmol
塩化カリウム	33 μmol
D - グルコース 6 - リン酸	5 μmol
β - NADPH	4 μmol
β - NADH	4 μmol
ナトリウム - リン酸緩衝液 (pH 7.4)	100 μmol
滅菌精製水	残量

5. 試験方法 ³⁾

5.1 被験物質溶液および陽性対照物質溶液の調製

溶媒検討の結果, 50 mg/ml の濃度で水に不溶, DMSO に溶解したため, 溶媒には DMSO を用いた。被験物質を所定濃度で DMSO に溶解し, これを同じ溶媒を用いて希釈して各濃度の被験物質溶液を調製した。

陽性対照物質の NaN_3 は注射用水(株)大塚製薬工場, ロット番号 K7B87)に, その他は DMSO(関東化学(株), ロット番号 810S1815)に溶解した。

5.2 被験物質濃度

予備試験を 5000, 1250, 313, 78.1, 19.5, 4.88, 1.22 $\mu\text{g}/\text{l}$ の 7 濃度で実施した結果, S9 mix の有無によらず, いずれの菌株においても復帰変異コロニー数の増加は認められなかった。また, S9 mix 非共存下および共存下の 1250 $\mu\text{g}/\text{l}$ 以上で抗菌性が認められた。この結果をもとに本試験では 1250, 625, 313, 156, 78.1, 39.1 $\mu\text{g}/\text{l}$ の 6 濃度を設定した。

5.3 復帰変異試験

試験はプレインキュベーション法で実施した。

滅菌した試験管に被験物質溶液を 0.1 ml, 0.1 M ナトリウムーリン酸緩衝液 (pH 7.4) 0.5 ml および菌懸濁液を 0.1 ml 加え, 37 °C で 20 分間振盪培養した。S9 mix を共存させる場合には, 0.1 M ナトリウムーリン酸緩衝液の代わりに S9 mix を 0.5 ml 添加した。プレインキュベーション後, トップアガー 2 ml を上記の混合液に加え混和し, 最少グルコース寒天平板培地上に重層した。重層したトップアガーが凝固した後, 37 °C で 48 時間培養した。

実体顕微鏡を用いて菌叢の生育状態を観察し, 被験物質による抗菌性の有無を調べた後, 目視により被験物質の沈殿の有無を確認した。プレート上の復帰変異コロニー数を自動コロニーカウンターで計測した。予備試験は各濃度につき 1 枚のプレートを使用した。本試験は各濃度につき 3 枚のプレートを使用し, 再現性を確認するため 2 回実施した。

陰性(溶媒)対照物質および以下の陽性対照物質についても同様に実施した。

菌 株	S9 mix 非共存下 ($\mu\text{g}/\text{プレート}$)		S9 mix 共存下 ($\mu\text{g}/\text{プレート}$)	
TA98	AF-2	0.1	2-AA	0.5
TA100	AF-2	0.01	2-AA	1
TA1535	NaN_3	0.5	2-AA	2
TA1537	9-AA	80	2-AA	2
WP2 <i>uvrA</i>	ENNG	2	2-AA	10

5.4 無菌試験

最高濃度の被験物質溶液または S9 mix をトップアガーと混和し, 最少グルコース寒天平板培地上に重層し, 雑菌の混入がないことを確認した。

5.5 試験結果の判定

いずれかの試験菌株で, S9 mix の有無によらず, 被験物質濃度の増加にともなって復帰変異コロニー数(平均値)が陰性(溶媒)対照値の 2 倍以上に増加し, さらにその増加に再現性が認められる場合に, 当該被験物質は変異原性を有する(陽性)と判定した。その他の場合は陰性と判定した。試験結果の判定には統計学的手法は用いなかった。

結果および結論

予備試験の結果を表1に、本試験の結果を表2, 3および図1~10に示す。

予備試験を5000, 1250, 313, 78.1, 19.5, 4.88, 1.22 $\mu\text{g}/\text{プレート}$ の7濃度で実施した結果, S9 mixの有無によらず, いずれの菌株においても復帰変異コロニー数の増加は認められなかった。また, S9 mix非共存下および共存下の1250 $\mu\text{g}/\text{プレート}$ 以上で抗菌性が認められた。この結果をもとに本試験では1250~39.1 $\mu\text{g}/\text{プレート}$ (公比2)の6濃度を設定した。

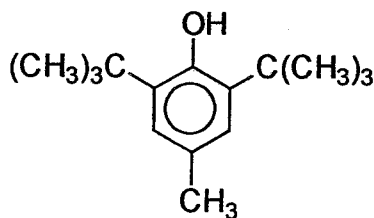
本試験1, 2の結果, S9 mixの有無によらず, いずれの菌株においても陰性(溶媒)対照値の2倍以上を示す復帰変異コロニー数の増加は認められなかった。

なお, S9 mix非共存下および共存下において陽性対照が各菌株に誘発した復帰変異コロニー数は, 各菌株の陰性対照の復帰変異コロニー数と比較して, 明らかに2倍を超えて増加し, 陽性の結果を示した。また, 最高濃度の被験物質溶液およびS9 mixについて行った無菌試験の結果, 試験の成立に影響を及ぼすような菌, カビ等の発育は認められなかった。

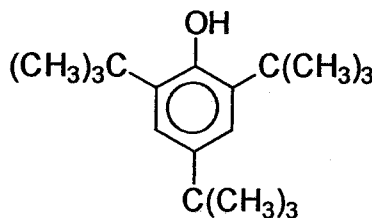
以上の結果から, 2,3,6-トリメチルフェノールは細菌を用いる復帰突然変異試験において変異原性を有さない(陰性)と結論した。

なお, 以下に示す類似化合物はいずれも細菌を用いる復帰突然変異試験で陰性の結果が報告されている⁴⁾。

2, 6-ジブチル-*p*-クレゾール



2,4,6-トリ-*tert*-ブチルフェノール



参 考 文 献

- 1) Maron, D.M. and Ames, B.N. (1983): Revised methods for the *Salmonella* mutagenicity test, *Mutat. Res.*, **113**, 173-215
- 2) Green, M.H.L. and Muriel, W.J. (1976): Mutagen testing using *trp*⁺ reversion in *Escherichia coli*, *Mutat. Res.*, **38**, 3-32
- 3) 労働省安全衛生部化学物質調査課編(1991):安衛法における変異原性試験, 中央労働災害防止協会, 東京
- 4) 石館 基 監修(1991):微生物を用いる変異原性試験データ集, 株式会社 エル・アイ・シー, 東京

表 1

試験結果表 (予備試験)

被験物質の名称 : 2,3,6-トリメチルフェノール (No.7L640)

試験実施期間		1998年 2月 24日 より 1998年 2月 27日					
代謝活性化系の有無	被験物質濃度 (μg/プレート)	復帰変異数 (コロニー数/プレート)					
		塩基対置換型			フレームシフト型		
		TA100	TA1535	WP2uvrA	TA98	TA1537	
S 9 mix (-)	溶媒対照	144	15	20	19	6	
	1.22	198	12	20	15	5	
	4.88	165	11	22	17	8	
	19.5	167	11	20	23	5	
	78.1	147	16	24	23	7	
	313	148	11	22	23	9	
	1250	0*	0*	0*	0*	0*	
	5000	0*	0*	0*	0*	0*	
S 9 mix (+)	溶媒対照	179	10	22	39	14	
	1.22	177	18	22	31	9	
	4.88	215	10	24	32	15	
	19.5	226	13	22	31	12	
	78.1	202	15	27	35	8	
	313	183	15	27	34	18	
	1250	0*	0*	0*	0*	0*	
	5000	0*	0*	0*	0*	0*	
陽性対照	S9 mixを必要としないもの	名称	AF-2	NaN ₃	ENNG	AF-2	9-AA
		濃度 (μg/プレート)	0.01	0.5	2	0.1	80
		コロニー数 / プレート	485	438	442	421	333
	S9 mixを必要とするもの	名称	2-AA	2-AA	2-AA	2-AA	2-AA
		濃度 (μg/プレート)	1	2	10	0.5	2
		コロニー数 / プレート	1101	295	1560	263	164

(備考) *: 菌の生育阻害が認められた。

AF-2 : 2-(2-フリル)-3-(5-ニトロ-2-フリル)アクリルアミド, NaN₃ : アジ化ナトリウム
 ENNG : N-エチル-N'-ニトロ-N-ニトロソグアニジン, 9-AA : 9-アミノアクリジン, 2-AA : 2-アミノアントラセン

表 2

試験結果表 (本試験 1)

被験物質の名称 : 2,3,6-トリメチルフェノール

(No.7L640)

試験実施期間		1998年 3月 16日 より 1998年 3月 19日					
代謝活性化系の有無	被験物質濃度 (μg/7°レ-ト)	復帰変異数 (コロニ-数/7°レ-ト)					
		塩基対置換型			フレームシフト型		
		TA100	TA1535	WP2uvrA	TA98	TA1537	
S 9 mix (-)	溶媒対照	162 150 (163) 177 (± 14)	15 8 (12) 12 (± 4)	27 39 (30) 23 (± 8)	24 27 (26) 26 (± 2)	4 4 (5) 6 (± 1)	
	3 9 . 1	149 175 (158) 150 (± 15)	7 16 (10) 8 (± 5)	33 25 (27) 22 (± 6)	23 30 (25) 22 (± 4)	4 4 (4) 3 (± 1)	
	7 8 . 1	153 142 (145) 141 (± 7)	14 11 (11) 9 (± 3)	25 21 (27) 34 (± 7)	20 20 (20) 20 (± 0)	8 7 (6) 3 (± 3)	
	1 5 6	135 142 (137) 135 (± 4)	13 9 (11) 10 (± 2)	23 35 (27) 23 (± 7)	17 18 (18) 18 (± 1)	7 6 (6) 4 (± 2)	
	3 1 3	128 149 (145) 159 (± 16)	9 13 (11) 12 (± 2)	34 37 (32) 24 (± 7)	35 23 (27) 22 (± 7)	7 6 (8) 11 (± 3)	
	6 2 5	94* 94* (102) 119* (± 14)	10* 9* (8) 6* (± 2)	24 24 (25) 27 (± 2)	23 21 (21) 19 (± 2)	9 8 (8) 7 (± 1)	
	1 2 5 0	0* 0* (0) 0* (± 0)	0* 0* (0) 0* (± 0)	0* 0* (0) 0* (± 0)	0* 0* (0) 0* (± 0)	0* 0* (0) 0* (± 0)	
S 9 mix (+)	溶媒対照	185 168 (181) 190 (± 12)	10 13 (13) 16 (± 3)	27 32 (29) 27 (± 3)	24 23 (30) 43 (± 11)	11 9 (9) 8 (± 2)	
	3 9 . 1	207 182 (193) 190 (± 13)	9 10 (12) 18 (± 5)	36 24 (31) 33 (± 6)	37 41 (38) 35 (± 3)	6 6 (6) 7 (± 1)	
	7 8 . 1	213 198 (199) 187 (± 13)	18 11 (17) 21 (± 5)	32 47 (38) 35 (± 8)	36 33 (38) 46 (± 7)	11 8 (8) 5 (± 3)	
	1 5 6	186 193 (191) 194 (± 4)	10 15 (13) 13 (± 3)	41 33 (38) 40 (± 4)	40 33 (40) 46 (± 7)	13 12 (14) 16 (± 2)	
	3 1 3	182 199 (190) 189 (± 9)	11 12 (12) 12 (± 1)	34 43 (35) 27 (± 8)	37 40 (40) 42 (± 3)	18 10 (13) 10 (± 5)	
	6 2 5	145* 137* (149) 165* (± 14)	12* 10* (13) 17* (± 4)	39 36 (37) 37 (± 2)	35 29 (29) 23 (± 6)	18 8 (14) 15 (± 5)	
	1 2 5 0	0* 0* (0) 0* (± 0)	0* 0* (0) 0* (± 0)	0* 0* (0) 0* (± 0)	0* 0* (0) 0* (± 0)	0* 0* (0) 0* (± 0)	
陽性	S9 mixを必要としなもの	名称	AF-2	NaN3	ENNG	AF-2	9-AA
		濃度 (μg/7°レ-ト)	0.01	0.5	2	0.1	80
対照	S9 mixを必要とするもの	コロニ-数 / 7°レ-ト	597 566 (574) 559 (± 20)	452 482 (476) 493 (± 21)	409 461 (427) 410 (± 30)	356 329 (346) 352 (± 15)	318 339 (314) 284 (± 28)
		名称	2-AA	2-AA	2-AA	2-AA	2-AA
		濃度 (μg/7°レ-ト)	1	2	10	0.5	2
		コロニ-数 / 7°レ-ト	1221 1131 (1200) 1247 (± 61)	344 339 (336) 326 (± 9)	1239 1339 (1324) 1393 (± 78)	393 485 (432) 419 (± 47)	131 180 (170) 200 (± 36)

(備考) *: 菌の生育阻害が認められた。

(平均値)
(±標準偏差)

AF-2 : 2-(2-フリル)-3-(5-ニトロ-2-フリル)アクリルアミド, NaN3 : アジ化ナトリウム
ENNG : N-エチル-N'-ニトロ-N-ニトロソグアニジン, 9-AA : 9-アミノアクリジン, 2-AA : 2-アミノアントラセン

表 3

試験結果表 (本試験 2)

被験物質の名称 : 2,3,6-トリメチルフェノール (No.7L640)

試験実施期間		1998年 3月 24日 より 1998年 3月 27日					
代謝活性化系の有無	被験物質濃度 (µg/プレート)	復帰変異数 (コロニー数/プレート)					
		塩基対置換型			フレームシフト型		
		TA100	TA1535	WP2uvrA	TA98	TA1537	
S9 mix (-)	溶媒対照	162 175 (164) 156 (± 10)	17 12 (13) 9 (± 4)	23 17 (25) 36 (± 10)	26 24 (26) 27 (± 2)	10 17 (13) 13 (± 4)	
	39.1	163 159 (157) 149 (± 7)	13 15 (14) 13 (± 1)	30 25 (28) 30 (± 3)	20 15 (16) 13 (± 4)	15 9 (13) 16 (± 4)	
	78.1	165 167 (168) 173 (± 4)	12 13 (14) 16 (± 2)	29 27 (28) 29 (± 1)	16 24 (21) 23 (± 4)	11 21 (17) 19 (± 5)	
	156	180 166 (162) 141 (± 20)	12 14 (16) 23 (± 6)	28 28 (29) 32 (± 2)	12 14 (16) 22 (± 5)	9 14 (13) 16 (± 4)	
	313	147 167 (158) 160 (± 10)	16 9 (13) 15 (± 4)	19 20 (26) 38 (± 11)	28 30 (25) 18 (± 6)	14 19 (17) 18 (± 3)	
	625	136* 107* (117) 107* (± 17)	5* 3* (6) 11* (± 4)	23 17 (23) 29 (± 6)	16 15 (16) 17 (± 1)	10 9 (11) 13 (± 2)	
	1250	0* 0* (0) 0* (± 0)	0* 0* (0) 0* (± 0)	0* 0* (0) 0* (± 0)	0* 0* (0) 0* (± 0)	0* 0* (0) 0* (± 0)	
S9 mix (+)	溶媒対照	172 187 (168) 144 (± 22)	15 17 (15) 13 (± 2)	37 24 (31) 31 (± 7)	36 33 (33) 30 (± 3)	16 15 (16) 18 (± 2)	
	39.1	183 193 (194) 205 (± 11)	26 12 (16) 10 (± 9)	29 41 (35) 34 (± 6)	36 42 (37) 33 (± 5)	18 15 (18) 22 (± 4)	
	78.1	212 218 (218) 223 (± 6)	13 9 (13) 17 (± 4)	38 35 (37) 37 (± 2)	25 27 (25) 24 (± 2)	11 10 (13) 18 (± 4)	
	156	214 190 (199) 192 (± 13)	10 17 (13) 11 (± 4)	44 34 (35) 27 (± 9)	40 36 (35) 30 (± 5)	20 21 (23) 27 (± 4)	
	313	218 197 (210) 214 (± 11)	16 16 (16) 17 (± 1)	41 23 (31) 28 (± 9)	28 44 (33) 27 (± 10)	18 19 (19) 19 (± 1)	
	625	166* 170* (161) 148* (± 12)	11* 8* (12) 16* (± 4)	22 36 (27) 22 (± 8)	21 23 (23) 25 (± 2)	8 13 (12) 16 (± 4)	
	1250	0* 0* (0) 0* (± 0)	0* 0* (0) 0* (± 0)	0* 0* (0) 0* (± 0)	0* 0* (0) 0* (± 0)	0* 0* (0) 0* (± 0)	
陽性対照	S9 mixを必要としな いもの	名称 濃度 (µg/プレート) コロニー数 / プレート	AF-2 0.01	NaN ₃ 0.5	ENNG 2	AF-2 0.1	9-AA 80
	S9 mixを必要とする もの	名称 濃度 (µg/プレート) コロニー数 / プレート	2-AA 1	2-AA 2	2-AA 10	2-AA 0.5	2-AA 2
			1160 1119 (1124) 1092 (± 34)	333 310 (321) 320 (± 12)	1343 1373 (1372) 1401 (± 29)	354 378 (365) 363 (± 12)	176 196 (181) 170 (± 14)

(備考) *: 菌の生育阻害が認められた。

(平均値)
(±標準偏差)

AF-2 : 2-(2-フリル)-3-(5-ニトロ-2-フリル)アクリルアミド, NaN₃ : アジ化ナトリウム
ENNG : N-エチル-N'-ニトロ-N-ニトロソクアニシン, 9-AA : 9-アミノアクリジン, 2-AA : 2-アミノアントラセン

図 1 (本試験 1)
被験物質名 : 2,3,6-トリメチルフェノール

No. 7L640

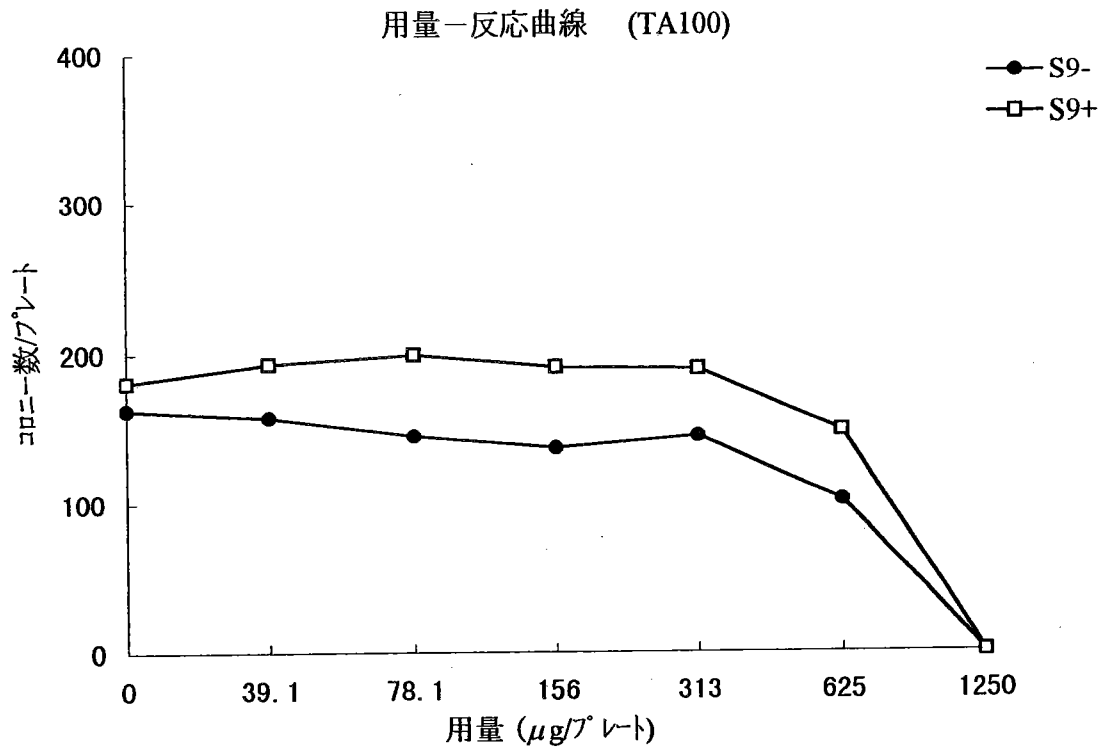


図 2 (本試験 1)
被験物質名 : 2,3,6-トリメチルフェノール

No. 7L640

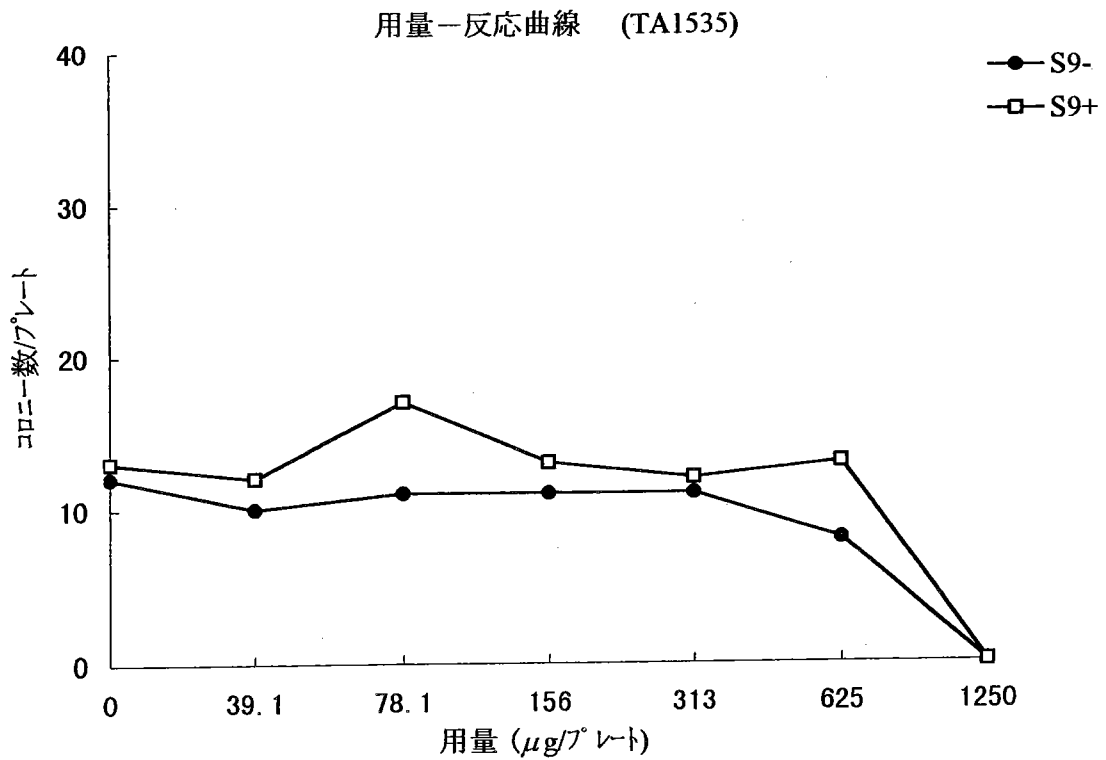


図 3 (本試験 1)
被験物質名: 2,3,6-トリメチルフェノール

No. 7L640

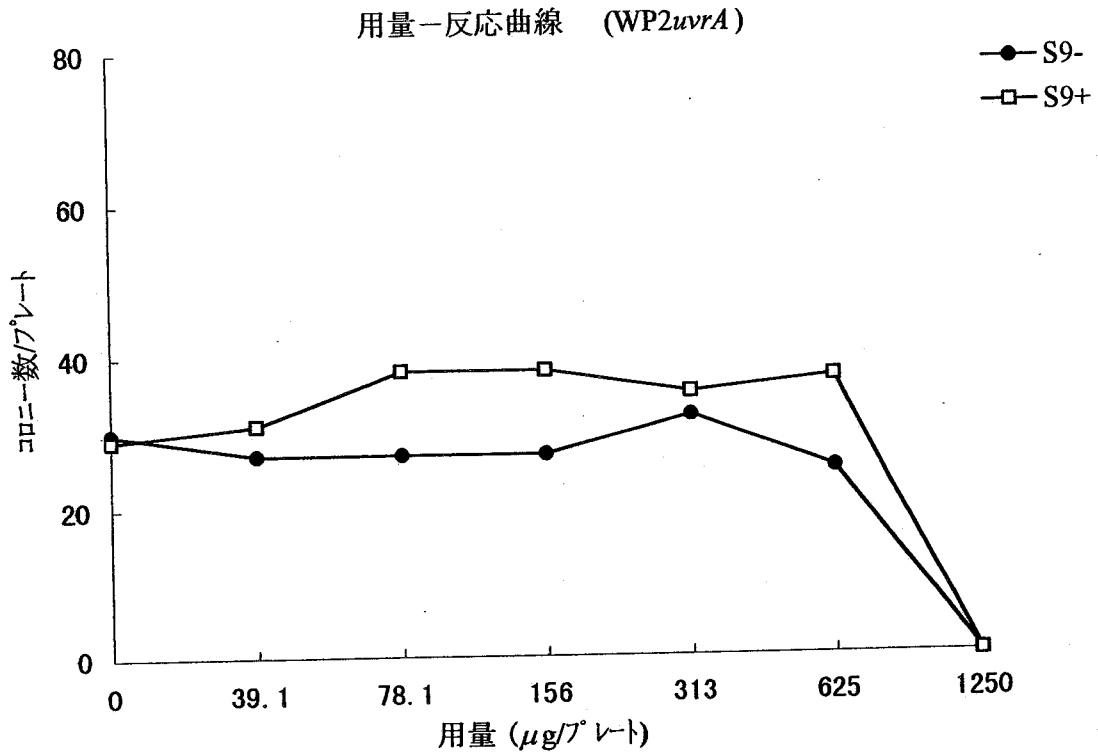


図 4 (本試験 1)
被験物質名: 2,3,6-トリメチルフェノール

No. 7L640

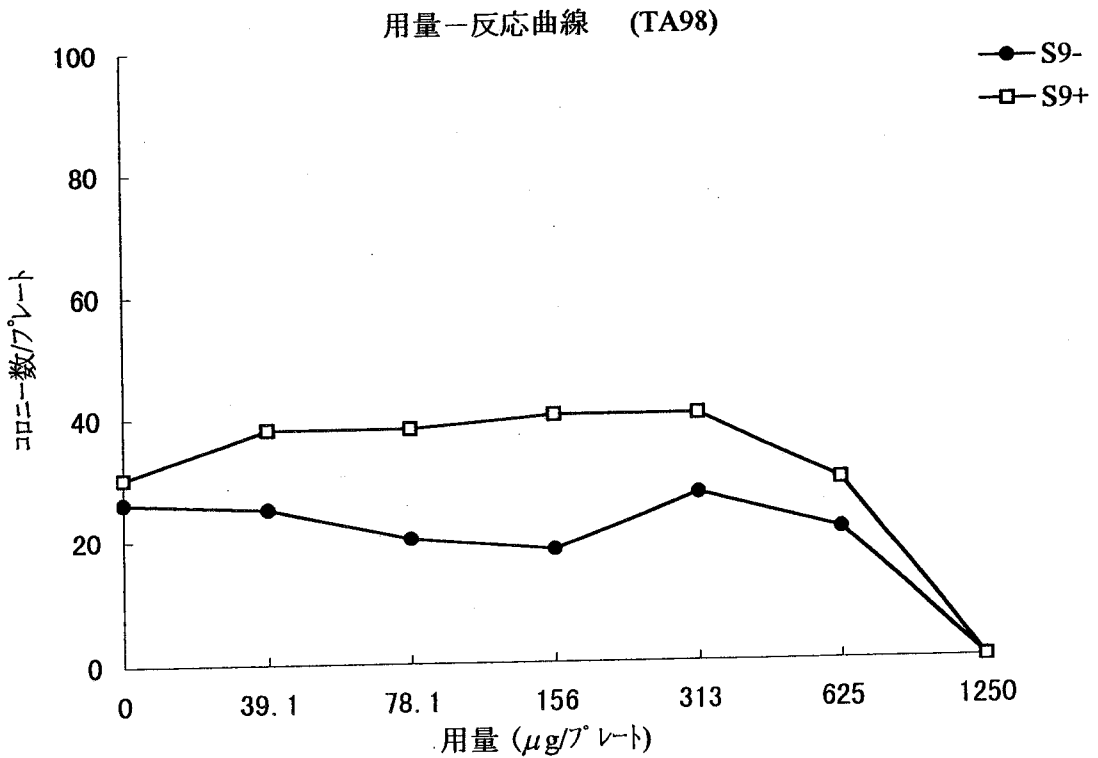


図 5 (本試験 1)

被験物質名 : 2,3,6-トリメチルフェノール

No. 7L640

用量-反応曲線 (TA1537)

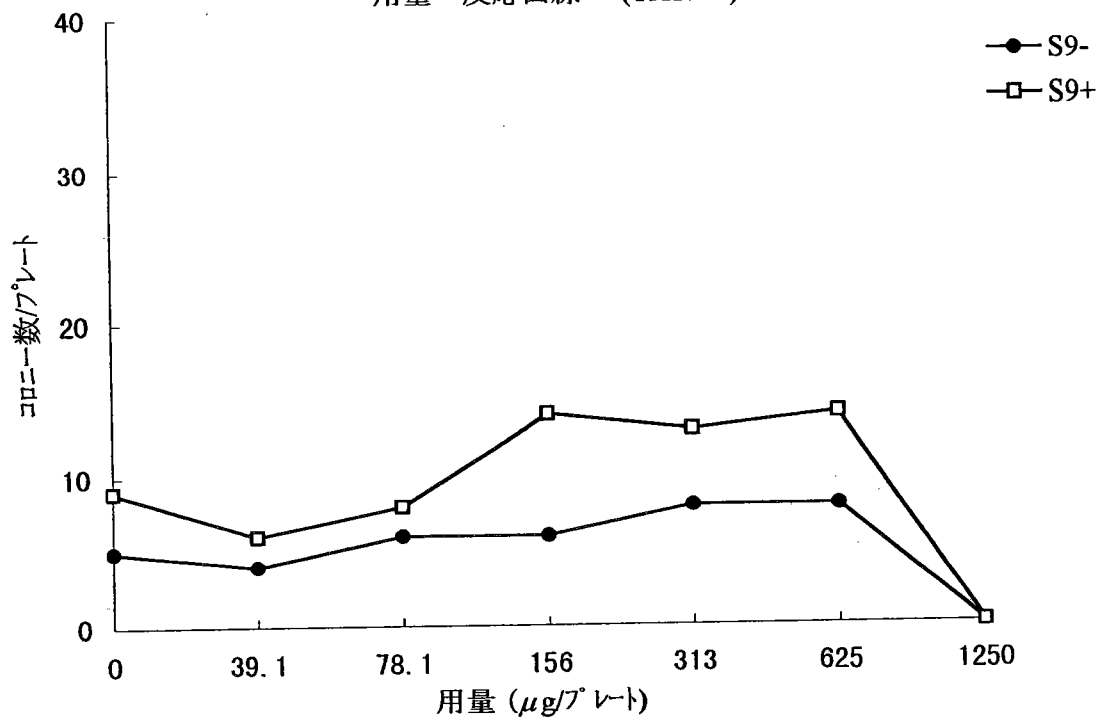


図 6 (本試験 2)

被験物質名 : 2,3,6-トリメチルフェノール

No. 7L640

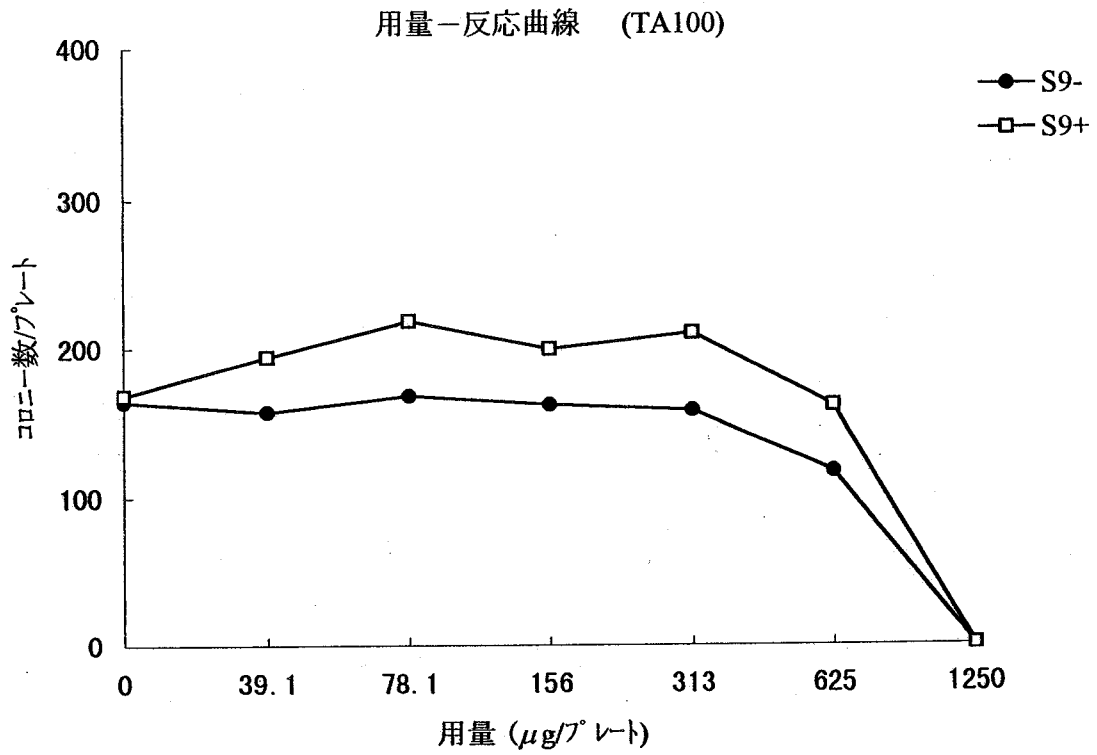


図 7 (本試験 2)

被験物質名 : 2,3,6-トリメチルフェノール

No. 7L640

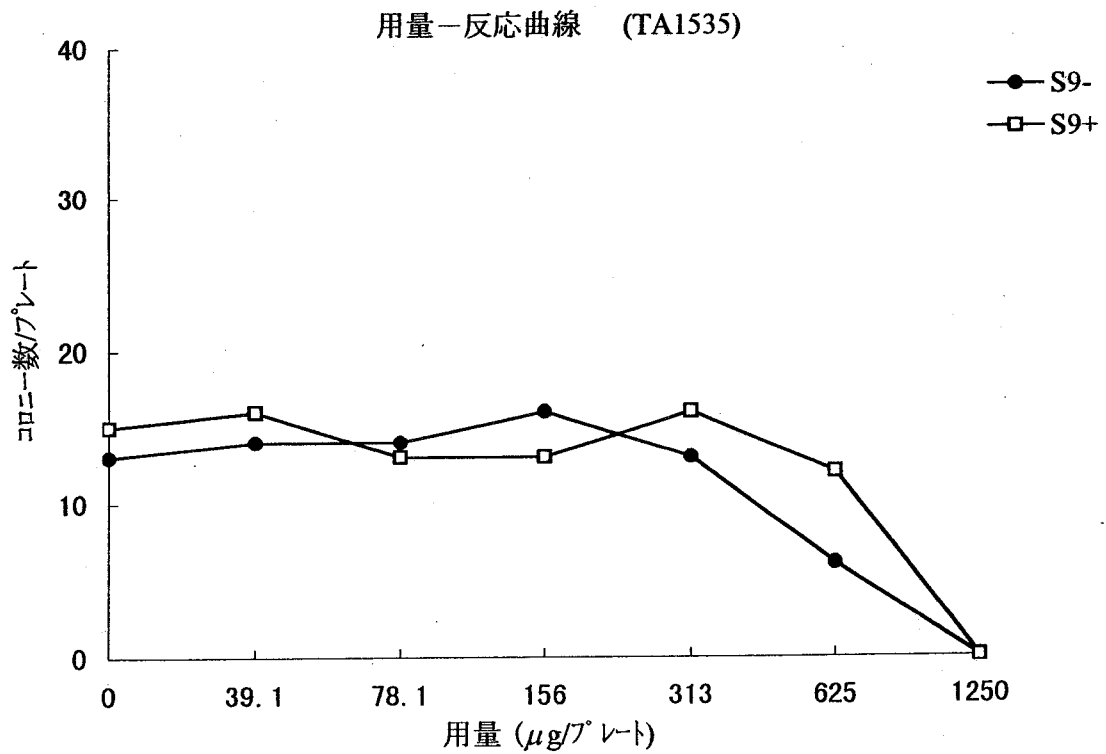


図 8 (本試験 2)

被験物質名 : 2,3,6-トリメチルフェノール

No. 7L640

用量-反応曲線 (WP2uvrA)

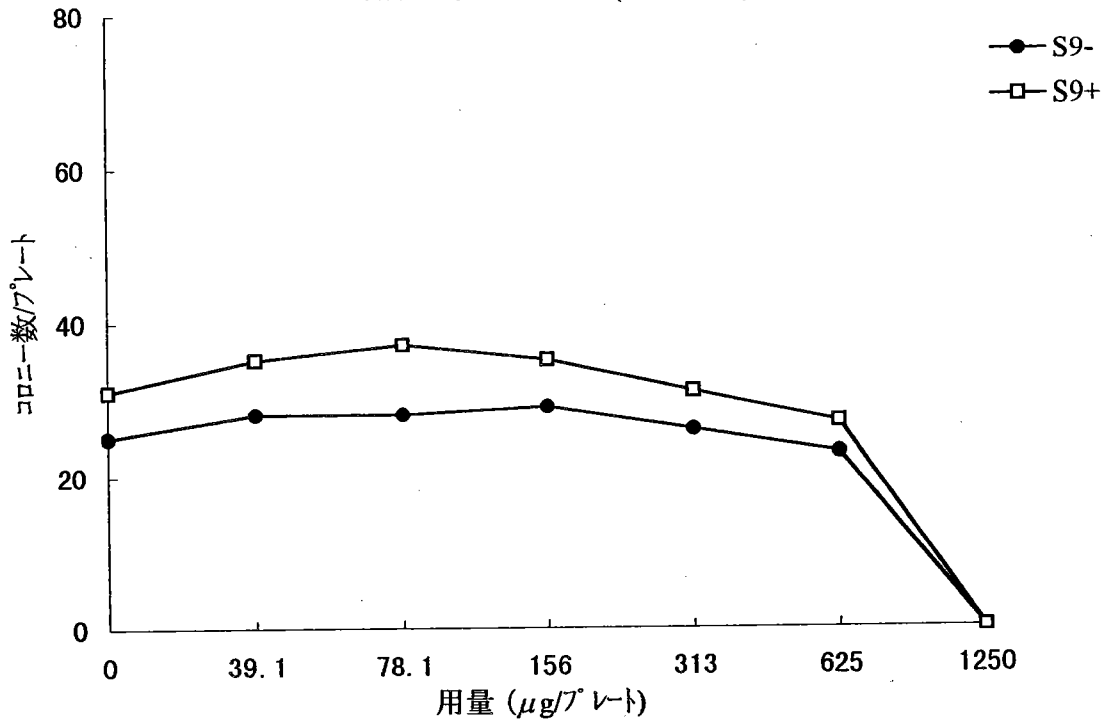


図 9 (本試験 2)

被験物質名 : 2,3,6-トリメチルフェノール

No. 7L640

用量-反応曲線 (TA98)

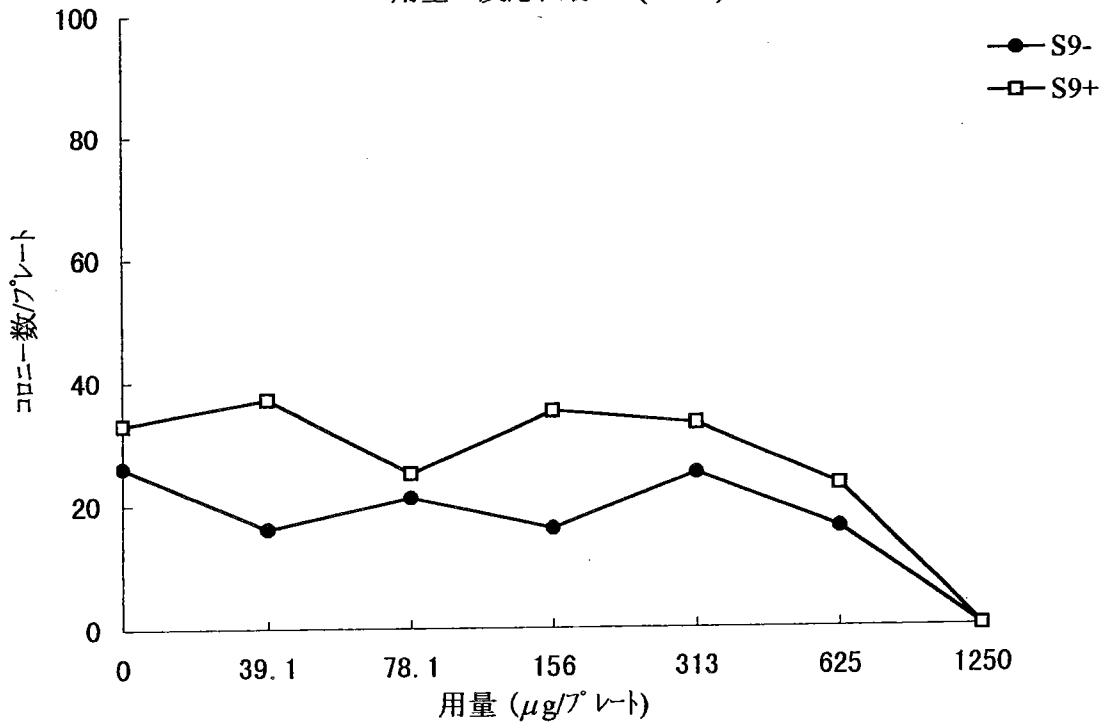


図 10 (本試験 2)

被験物質名 : 2,3,6-トリメチルフェノール

No. 7L640

用量-反応曲線 (TA1537)

